

平成30年7月17日

マーティン議長との意見交換会

午後2時10分開会

○議長（白川） マーティン議長と茅ヶ崎市議会の4つの常任委員会の委員長及び副委員長との意見交換会を開会する。

〔白川議長挨拶〕

○議長 4つの常任委員会の委員長及び副委員長を紹介する。

総務常任委員会の岩田はるみ委員長。

総務常任委員会の菊池雅介副委員長。

教育経済常任委員会の山田悦子委員長。

教育経済常任委員会の水本定弘副委員長。

環境厚生常任委員会の小磯妙子委員長。

環境厚生常任委員会の小島勝己副委員長。

都市建設常任委員会の加藤大嗣委員長。

都市建設常任委員会の小川裕暉副委員長。

なお、本日の意見交換会には通訳者に同時通訳をしていただくので、よろしく願いたい。

意見交換を始める。

まず、ごみの減量について、取り組み状況の説明を環境厚生常任委員会の小磯委員長、よろしく願いたい。

○小磯委員長 私どもは、市の政策に対して、ごみの減量化に対して政策提言を行うためにこの間研究してきた。市としては、ごみの有料化の取り組みの検討を始めている。私たちは、有料化は市民の生活、経済的に大きく影響があるものと考えているので、有料化の前にまず減量化を進めるべきと考えて研究を進めてきた。

本日はマーティン議長より、ホノルル市の状況、家庭ごみの収集の状況、有料化なのかそうでないのか、減量化に向けて市民の意識を醸成していく政策があるのかないかを伺いたいと思っている。

○マーティン議長 非常にすばらしい質問に感謝する。というのも、ホノルルも茅ヶ崎と全く同じ状況にあり、市長はごみの収集を有料化のサービスにしようということでここ3年ぐらい話をしてくれている。ただ、市議会と市民はかなり強く反対しているので、我々の状況とも関連のある質問ということで感謝する。

こういった問題を扱うときに非常に難しい点は、今までは公共サービスとしてごみを収集してきたので、市民はもう既にそれに対して金を払ってきているとの気持ちでいること

が非常に難しい点である。

ホノルルでは非常に積極的にリサイクルを推進しており、例えば食べ物のごみやグリーンウエストと呼ばれるものについてはたくさんリサイクルを進めている。今まではごみの収集は週2回から1回に減らし、市民は最初はリサイクルにはなれないし、できないと思われていたかもしれないが、実は進捗には目覚しいところがあり、だんだんとなれてきている状態である。

そういった形で、埋め立てをするごみの量は減らしてきている状態にある。そしてこの問題を扱っていくに当たっての動機としては、ごみの埋立地はホノルルに実は1カ所しかない状態になっている。1カ所しかない埋立地についても5年以内に収容量がいっぱいになってしまうといった難しい状況はあるが、議員の皆さんは、自分たちの選挙区に新しいごみの埋立地をつくることは、政治的な現実があり難しい状態にある。自分たちの選挙区にごみの埋立地をつくってしまうと次の選挙で落ちてしまうことがあるので、政治的な意思として、どちらかというにごみを減らしていくことになり焦点が当たっている。

○小磯委員 茅ヶ崎も全く同じで1カ所であり、あと15年は残っているが、周りの住民にも搬入車などで影響を与えたり、環境に影響を与えているので、そこがいっぱいになるとほかを探しようがないので、100%ごみをリサイクルしていく方向に日本全体が向かっている。茅ヶ崎も同じで、ごみの減量化の計画を立てているが、ホノルルでは、例えば1日に1人当たりが家庭で出すごみの量は何グラムなどという目標値を決めて市民にPRしているのか、計画があるかどうか伺いたい。

○マーティン議長 またすばらしい質問に感謝する。ホノルルでもごみの削減については野心的な目標を掲げており、もちろん最終的には今の埋立地でも十分処理できるようなものに減らしていきたいと考えている。また、ホノルルでは、ごみを燃やしてエネルギーにしているが、今はごみを集めている量が減ってきたので、この焼却炉で全てごみを燃やしてもエネルギーがそれほど得られない状況になるくらいまでごみを減らすことができている。

私は茅ヶ崎のことをそこまで知らずに不勉強で申しわけないが、我々の市の場合には、市がごみを収集するときに、この容器に入れてもらいたいという容器を提供している。したがって、実際には目標を声高に叫んではいないが、容器が小さくなっていくことによって自然とごみの量が減らされていく、自然と意識が改革されているといった方向性をとっている。

このような形でごみの削減をしているが、2回から1回に減らしたことで、これで50%のごみが既に削減できた状態にある。それに加えて容器のサイズも小さくしている。特に1つしかごみの埋立地はないので、こういった形で少しずつ意識の改革を行って、この懸念事項に取り組んでいる。

○小磯委員 きのう少しごみの収集について家庭レベルで話を伺ったが、焼却炉にいろいろなものを入れて燃して、そこからエネルギーも発生するとのことであるが、かなり高性能な焼却炉を持っているのか。茅ヶ崎も高性能であるが、焼却灰が出て、今度はそれを溶融化してセメント化にしてリサイクルする方法もこれから考えていかなければいけないが、高性能で何でも燃えてしまい、それをエネルギーに変える焼却炉を持っているのかが1点である。

また、それは何年くらいもち、故障したり、有効期間が過ぎれば大規模な整備費用がかかると思うが、そのための費用を捻出する手だての計画はあるのか。

○マーティン議長 我々は非常に高性能な焼却炉を持っており、これをHパワーシステムと呼んでいる。非常に効率の高い焼却炉になっており、ごみを燃やすことによって自分たちの市の中で必要な電力以上の電力をつくり出すことが今できている。そのため余剰電力を電力会社に売っている状態にあるので、焼却炉からの収入もある状態になっている。したがって予算については、焼却炉事業そのものが採算がとれるものとなっている。

このHパワープログラムで3基の焼却炉があるが、そのうち稼働状態にするのは2基までで、3つ目のボイラーは常にスタンバイ状態にしている。最近、3つ目のボイラーに予算をつけて3つ目ができたが、それでも焼却炉事業は採算がとれているので、特に問題とはなっていない。

○小島副委員長 先ほど来、ごみの焼却の問題と、排出したごみの処置の問題として、容器を小さくしたり、削減する戦略を考えているが、市民サービスの問題なので、市民からは苦情が出ないのか、それから、地域でごみの散乱の問題等は発生しないのか。今、茅ヶ崎市としての取り組みもあるが、我々はまず最初に自分たちで自発的にごみの量を減らすことを戦略的に考えている。その後には有料化、または戸別収集等の方法があると考えているが、ホノルルは観光都市で汚れが目立つと客は来なくなるので、ぜひきれいなまちを維持したいが、その辺の思いについて伺いたい。

○マーティン議長 確かにサービスの削減となるので、週2回集めていたのを1回にしたり、容器のサイズを小さくすることを提案したときにはもちろんかなり反発はあった。政

治的な戦略としては、こういった反発を受けて、引き続き2回ごみを収集することはできない。ただ、1度目のごみの収集は無料で行うが、2度目にプラスでごみを収集してほしい場合には有料化をするといったことを言ってきた。容器の問題についても、市が提供する容器のサイズは小さくしたが、引き続き個人で持っている大きい容器を使いたい人たちもいたので、自分で持っている大きい容器の場合には手数料を取ることにした。したがって、選択肢は与えて、2度目のものとか追加の余剰分は手数料をかけるということを戦略として使ってきた。

2点目の質問のまちのきれいさ、衛生については、実際にホノルルの焼却炉は非常に高性能で、ごみの処理能力が足りない状況では全くないので、その点は今は問題がない。実際ごみを燃料として使って焼却炉のシステムを動かしていくので、むしろごみの量はある程度なければ、このシステムを効率的な形で稼働させることができないということで、むしろそちらを問題として見ている。

○小島副委員長 ごみを減量するために、減らすための手段的な見方で行政は有料化することを進めているが、我々としては、自発的に自分たちで減らしていく仕組みをもっと市民自身が持って進めていくべきではないかとの思いで提言を今進めている。その辺はホノルル市ではどのような対応をしているのか。

○マーティン議長 確かに言われるように、どのような行政サービスに対しても、手数料を取るときには、市民の意見、市民の感情が非常に重要となってくると思う。そういった意味でホノルルも、茅ヶ崎、もしくはアメリカの他の都市、日本の大都市と比べて同じような状況にあるということで、行政サービス、公共サービスに対して手数料を取るのは、我々はフィー・フォー・サービスといった取り組みを行っており、これは大体議会ではなく、行政が提案することである。ホノルルは今、経済状態が非常にいいということで、それについては非常に運がいいが、同時に、ハワイはアメリカの中でも最も税金が高い州として知られているので、そういった観点からも、市民に対してフィー・フォー・サービスの考え方、手数料を払ってもらう考え方については反発がある状態にもある。

○議長 時間がなく、次はフリートーキングになるので、とりあえず環境厚生常任委員会の意見交換はこれで終わりにしたい。

続いて、ユニバーサルデザインの推進について意見交換をしたい。

取り組み状況の説明を都市建設常任委員会の加藤委員長に願いたい。

○加藤委員長 ユニバーサルデザインの推進についての現在の都市建設常任委員会の取り

組みの状況は、国内各市でユニバーサルデザインについて先進的に取り組んでいるところを視察したり、ユニバーサルデザインについて市内の市民団体との意見交換をしている。なぜユニバーサルデザインを今回の都市建設常任委員会の政策提言のテーマとしたかというのと、21世紀は4つの化という、国際化、少子高齢化、男女共生化等があり、この観点からも、全ての人移動しやすい、生活しやすい、また、その人がその人らしく生活できて生きていくにはということで、この場合にバリアフリーは高齢者や障害者が対象者になっているが、ユニバーサルデザインの考え方は全ての人対象になる。21世紀のまちづくりはユニバーサルデザインが必要になってくると考えて、これをテーマとして選定した。

御市においてユニバーサルデザインを進めていく上で優先順位があるのかどうか、また、あるとしたら、例えば観光客なのか、市民なのか、事業所なのか。また、これを進めていくには、例えば職員体制はどのようにしてきたのか、市民に対する周知はどのようにしてきたのか、お答えできる範囲でお願いしたい。

○マーティン議長 恐らく今質問された委員長も、ホノルルでユニバーサルデザインをするに当たってどのぐらい手続が長いものであるのかを知ったら非常に驚かれると思う。今、ユニバーサルデザインは本当にあらゆるところで縦横無尽にどんどん進めており、より整理された形で、優先順位をつける形で進めることができていないことが実は逆に問題となっている。ハワイで何か工事をしようとか、何かを建設しようとなると、ユニバーサルデザイン関係で非常に時間がかかる状態になっている。人員については、今政府の中、自治体の中で公務員が非常に多く、人の数が多過ぎることが逆にもっと効率よくやろうという動機が働かない状態になってしまっている。

それから、議会もまだそこまで対応はできていない。また、我々の場合は公務員も皆労働組合に入っており、ハワイは非常に組合が強いということで、この辺のプロセスの効率を高めることが難しくなっている。ただ、議会では少し対応し始めているところで、手続については、例えばプロジェクトが非常に大規模なものなのか、少し住宅を改善する小規模なものなのかを区別する。要するに、大規模なものでなければ、ユニバーサルデザイン関係のプロセスをもう少し短くすることを今考えている。ただ、今の段階では、ユニバーサルデザインも全く優先順位をつけることなく、来たものから順番に処理をしているので、再検討の余地が非常にあると考えている。

○加藤委員長 ユニバーサルデザインを進める上で、ホノルル市では法的な整備はどのようにしているのか。例えば条例でやっているのか、あるいはガイドライン的なものでやっ

ているのか、それとも推進計画なり、その他、それにかわって明文化されたものがあると思うが、どのような法的な整備でユニバーサルデザインを進めてきているのかを伺いたい。

○マーティン議長 実ほノルルでは、ユニバーサルデザインそのものの推進というよりも、我々の制度における重複を減らす努力のほうが盛んである。要するに、プロジェクトを行うときには何度もいろいろなレベルでの承認を得なければいけないということでなかなかプロジェクトを先に進めることができない状況で、それによりいろいろな人たちがフラストレーションを抱えている。けさ、茅ヶ崎の下水道のシステムや雨水のシステムのプロジェクトについて話を聞いたり、見学、視察をさせていただいたが、そこで、こういったプロジェクトが概念の段階から実際にデザイン、実行に移って完了するまでにどのぐらい時間がかかるのかを伺った。

そのときの答えとしては7年間と教えていただいたが、ホノルルの場合は、あれだけの規模のプロジェクトとなると、7年ではとても終わらないということがある。したがって、我々の焦点としては、ユニバーサルデザインそのものの推進よりも、制度上の時間がかかる部分、制度が重複してしまったり、かなり役所での手続をいろいろやらなければ物事が前進しないとといった状況の是正に焦点を当てている。

○議長 都市建設常任委員会のユニバーサルデザインの推進について正副委員長からはないということであるが、都市建設常任委員会の時間が若干あるので、委員の中から意見等があったらいかがか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長 都市建設常任委員会はこれでよいということなので、ユニバーサルデザインの推進についての意見交換はこれでおしまいにしたい。

総務常任委員会で人材育成の部分を出していただき、市長部局は市長のほうなのでということであったが、昨日議長に伺ったところ、議会の職員は議会が採用し、人材育成をしていることもわかった。そのところで委員長から聞きたいことはあるか。

○岩田委員長 今回、総務常任委員会のテーマは残念ながら意見交換会のテーブルには載らなかったが、1点だけ伺いたい。市の職員採用については、市の職員の採用試験、筆記試験や面接はなく、定年制もないところまでを確認している。市長権限、議長権限があることが確認できたが、議長権限の中で、議会に求められる職員像、職員のあるべき姿の考えを伺いたい。

○マーティン議長 我々の議会のスタッフについては、もちろん最低限の資格は必要とし

ている。例えば会計士の資格を持っていなければというところはあるが、ホノルルは非常に就業率が低いため、公務員になってもなかなかそういった人材を維持できない、続けてもらえないという問題がある。それから、我々のほうで雇った人たちに訓練をいろいろするが、その訓練を受けたあげく、最終的には民間のほうが給与が高いこともあり、我々が訓練した人材がそのまま民間に流れていってしまう状態に今直面している。したがって、我々がいろいろと苦労して人材を育成しても民間に流れてしまうので、我々が課題として捉えているのは、そういった人たちをどのようにして公共サービスの分野にとどまってもらうか、公務員としてとどまってもらうかということがある。したがって、我々は、公共サービスに対してコミットメントを発揮して働くことは、単なる職業上の問題だけではなく、地域社会に対して奉仕をするといった意識でやってもらいたいということで考えている。

それから、今のコメントにつけ加えたいが、私の議長という立場からしても、他の都市との関係は非常に重要だと思っている。ホノルルは非常に多様性のある文化の中心のようなどころではあるが、ホノルルに住んでいる人たちは、他の場所の文化、州の文化に触れる経験が余りない。したがって私としても、それから市長についても、姉妹都市の関係は非常に重要であると考えている。こういった環境を続けていくことによってホノルルの人々も、自分たち以外の文化はどのようなものなのかを理解し、ホノルルをさらに強くすることができると思っているからである。

○議長 総務常任委員の皆様で委員長に関係する質問はないか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長 時間が迫っているので、教育経済常任委員会の皆様の時間はカットさせていただきます。

マーティン議長、ありがとうございます。限られた時間ではあったが、各内容について大変有意義な意見交換を行うことができた。続いて、これからのホノルル市議会と茅ヶ崎市議会の交流について自由に意見を出し合いたいと思っているので、よろしく願いたい。

短い時間であるが、15時35分ぐらいまで15分間をとりたいと思っている。ホノルル市議会と茅ヶ崎市議会の交流は今回はこのような形をとったが、まずマーティン議長、茅ヶ崎市議会とマーティン議長との意見交換をさせていただいたが、これについて意見等があれば伺いたい。

○マーティン議長 議長、副議長においても、今回私をこういった形で呼んでいただいて

いろいろとおもてなしいただいていることに感謝したい。まさにこういったセッション、意見交換を行えることで私は今回茅ヶ崎に来た。そして、今後の将来の関係はどのように進めていくかについて議論したかったからこそ、こうして今回伺った。もちろん古くからのよい友人である青木様、広瀬様もいるのでそれもあって来たが、私は毎年来ているが、こういった形で意見交換のような機会に恵まれたのは初めてである。

両市議会の関係は、単に象徴的なものだけではなく、本当に今後の関係の発展のために意味があることをやりたいと思ってやってきた。今回の訪問の際には、議長がずっと私のそばについて同行してくれ、それから浜降祭も初めて体験することができた。私は日系人であり、妻もそうであるが、今までこのように文化的に大事なものである浜降祭などを体験することができていなかったのも、今回の経験は非常に意義深いものであった。また、ホノルル市民についても、これほど重要な文化的なイベントがあるので、もう少し小さい規模であってもこういった文化を体験できることがあれば、それは非常に有意義なものになると思う。

○議長 皆さんからいかがか。

○柁木議員 両市の議会のつながりの中では、実はこの日本という国は、今世界の国で経験したことがない状況にあり、大規模な人口減少と超高齢化の社会が来ている。市の財政状況も、いかに働いてくれる層がこのまちに住んでくれるかにかかっている。もう1点は、今の日本の自治体の860ぐらいが消滅してなくなってしまう。だから今、都市間競争が激しく続いており、特に茅ヶ崎市でも高齢化率が既に30%を超えている地域がいっぱいある。ホノルルと長くつき合っていくには、茅ヶ崎市がある程度の規模を保っていかなくてはならないし、ある程度富裕層の方に住んでいただいて、気持ちよくこのまちの中で終えんまで迎えていただくようなシステムをつくっていかなくてはならないと思う。

ホノルルというところは、ある意味我々にとっては楽園だと思う。ホノルル市の取り組み等を通じながら、議会として多様性や文化、歴史を互いに深く知っていくことで、次の世代にそれを伝えていく作業をしながら、より深みのあるつき合いをしていけたらいいと思っている。そのため、2つの国の問題点というところまで今後突っ込んで、知りながら会話ができるような取り組みができたらいいいと考えているが、議長に考えがあれば伺いたい。

○マーティン議長 ホノルルと茅ヶ崎の関係ということで今話をしているが、実はホノルルも、茅ヶ崎よりも物すごい楽園のようなところかと言われると、そうでもないというこ

とがある。ホノルルは都市の規模としては育っているわけではなく、実は小さくなってきており、茅ヶ崎市と同様に高齢化は進んでいる。人口はどんどん高齢化が進んでいるので、それがまちの発展の形にも影響を与えている。ホノルル、それから米国どこでもそうであるが、非常に生活に金がかかる状況になっているので、人々は長く働くようになってきている。特にアメリカでは70代まで働く、もしくは80代まで働くことが普通のことになってきており、もちろん体が健康で自分がやっていることを楽しんでいけばということであるが、長く働くということも起こってきているので、その分野も対応が必要であると思っている。

そして、互いの関係から何を学べるかについては、実はアメリカは今の大統領がどういう人であるかということも鑑みて、かなり厳しい局面に入ってきている。特にハワイは文化的に非常に多様性があるので、ハワイの先住民以外の人たちは、自分たちがもともとは移民であったことを決して忘れてはならないと思っている。自分たちが一体どういう人間でどこから来たのかという文化的なルーツを決して忘れてはいけないと思っている。そういった意味で、今回の我々の訪問は非常に意義深いものとなった。議長にも話をしていたが、私の妻がこの茅ヶ崎に住むということは、私にとって想像にかたくないことで、自分が住んでいる様子がイメージできると言っており、そういったことから、どのぐらいこの2つの都市が似ているかの証左になっていると思う。

私がこういうことを言うと少し自己中心的だと思われるかもしれないが、この関係から得ているものは、実はホノルルのほうが、茅ヶ崎がホノルルから得ているものよりも多いと、我々のほうがたくさんメリットを享受していると思う。私たちのルーツは日本にあると言う人たちもかなりたくさんいるので、そういった意味で自分たちの文化はもともとはどういうものだったのかを学ぶことができれば、若い世代も含めて非常にメリットがあると思っている。そういった観点から、文化的なルーツ、自分たちの先祖はどこから来たのかについての意見交換がもっともっと深まれば、それは非常にメリットがあることだと考えている。

○榎木議員　ともすれば行政の仕事は市民にとってはサービスの要求が多くなるが、本質的なところでは、市民の中に持っているマインドが非常に大事だと思う。議長の話の中には、歴史とか文化、それからルーツということが頻繁に出てきているので、実はそういったより深い文化面を大事にしていかないと、そのまちが崩れていく可能性が大いにあると思う。特に日本は今都市間競争が進んでいるが、サービス合戦をしたらそのまちはつぶれ

ていくはずなので議長の考えには同意するし、そういったつき合いを深めていければいい
と思っている。

○マーティン議長 賛成する。

○議長 まだまだ皆様方から意見を伺いたいが、時間が迫ってきたので第1部をここで閉
会とする。

休憩する。

午後3時35分休憩

午後3時50分開議

○副議長（岸） 再開する。

初めに、ホノルル市議会アーネスト・マーティン議長よりホノルル市議会に関する話を
伺いたい。

○マーティン議長 私ではなくて広瀬議員に話をさせていただいてもいいと思うので、いつ
でも言ってもらいたい。

まずホノルルの市議会についてであるが、両市の市議会には幾つか違いがある。まずホ
ノルルは小さい自治体となるので、市議会のメンバーは議員が9名となっている。それぞ
れが違ったホノルル内の地域を代表しており、茅ヶ崎はずっと大きいので、そこがまず大
きな違いだと思う。それから、政府のたてつけとして、米国ではよくあるが、茅ヶ崎の場
合は行政は市長によって代表されて、議会は議会であるということで、そこも違いかと思
う。私の知識では、御市がどのようなプロセスで立法措置などをされているのかまではわ
からないが、ホノルルの場合は、条例をつくったり何らかの立法措置を行う場合には、常
に市民が討議を行っているセッションにやってきて、証言をすることができるという制度
をとっている。

それからもう一つ違いとしては、ホノルルの場合は各地域に1人代表がいるので、一般
市民は自分の代表は議会では誰なのかを、茅ヶ崎市のような大きな都市に比べて知ってい
ると思う。要するに自分たちのことを代表してくれているのか、議会では誰なのかについ
てしっかりとした理解を市民が持っていると思う。もしかしたら御市の場合はもっと規模
が大きいので、市民は、自分の代表が複数いる状態があるかもしれないと、そこまではっ
きりと自分たちの代表のことを意識していないことがあるかもしれない。

それからもう一つ大きな違いとしては、市議会議員もしくは市長は特に党の所属はない。

所属政党はなく、共和党とか民主党とかはない。そういうことによって市議会などが分断されない状態になっているので、そこが1つの違いだと思う。

何か具体的な質問があれば、それに対して答えたほうが良いと思う。

○副議長 時間が迫っているので、端的に広瀬議員の質問で終わりたいと思うので、よろしく願いたい。

○広瀬議員 簡潔に質問する。第1部で質問したかったが、茅ヶ崎市とホノルル市が姉妹都市提携を結び、本当に行政、服部市長、議会も順調に積み重ねて育んできていると思う。今回、議員としてコバヤシ議員が来る予定が急遽キャンセルされて、我々は本当に議長の人柄や誠実さを何回かの交流で理解しているが、今後我々がホノルルの議員との交流をもう少し深めていくには議員間交流が必要だと思うが、議長の考えを示していただければと思う。

○マーティン議長 私からも簡潔に答えたいと思う。広瀬議員から質問いただいたが、我々の任期には限りがあるので、市議会の中に交流の知見をためていくことが非常に重要であると思っている。特にホノルルの場合は再選は1度までになっているので、ことし選挙が行われなければもっとたくさんのメンバーたちが私と同行したと思う。少なくとも3人くらいは、コバヤシ議員やほかにも何人か来たと思う。コバヤシ議員は、彼女自身は再選を目指してはいないが、息子が今度選挙に出るということで今回は来なかった。予算委員会の委員長を務めているオザワ議員、フクナガ議員も、ことしにもし再選を目指していなければ私と同行したと思う。選挙の年は、有権者の目があるので余り海外に出かけたりしないが、もし選挙がなければ3人とも今回来たと思う。

この3名は日系人であり、私よりももっと長く議会にとどまっていく人間であると思うので、こういった人たちを通じて御市との関係をさらに強化していければと思っている。関係が続いていくというのはもう言わずもがなであると思っているので、この関係をどのように強化して次のレベルに持っていけるかをこれからしっかり考えていきたいと思っている。現在関係があるが、この関係が単に象徴的なものにとどまってしまっただけでは、せっかく皆様から時間をいただいているのに無駄になってしまうと思うので、これをどのように次のレベルに持っていくかを考えたいというのを答えとさせていただく。

○副議長 進行の時間の都合上、質問はこの程度でとどめさせていただく。

最後にマーティン議長より、本日までの茅ヶ崎市訪問に関する感想、または茅ヶ崎市議会との交流に関して言葉をいただきたい。

○マーティン議長 まず最初に議員の皆様に対して、今回また私が訪問する機会をつくっていただいたことに心から御礼申したい。今回の訪問は非常にたくさんのものが得られた。浜降祭に参加することもできたし、広瀬元議長、青木元議長、それから今回白川議長とも話をする事ができたが、私の母は日本の出身であるので、そういった話もできたことで非常に意義深い訪問になった。私の文化的なルーツとしても大きい意味がある訪問となった。

私は選挙で選ばれた政治家、また議長であるので、地域社会に対して奉仕をすることを仕事としているが、私が引退をするときには、自分が行った立法措置、それから政治的な実績ということよりも、議員である間にどのような友情関係を育んでくる事ができたのかを心にとどめて引退したいと思っている。したがって、今回また広瀬元議長、青木元議長、白川議長にお目にかかれたことを非常にうれしく思っており、また服部市長とも知り合いになれたことを非常にうれしく思っている。したがって、皆さんとの友情関係は単に今だけの関係ではなく、長く続いていく友情関係であると思っているので、友人の皆様方に対して、こういった機会をいただいたことに心からお礼を述べて、私の最後の結びの言葉とさせていただきます。（拍手）

○副議長 まだまだ意見を伺いたいが、残念ながら時間が迫ってきた。マーティン議長、平田茅ヶ崎市姉妹都市交流特命大使、本日は感謝する。2人に大きな拍手で労をねぎらいたいと思う。（拍手）

この後、議場にて記念品の贈呈と記念写真の撮影を行うので議場へ集まっていただきたい。

午後4時10分閉会